

4 文化芸術、スポーツの振興を図るまち

総合基本計画関連ページ

第5章施策の体系

4 文化芸術、スポーツの振興を図るまち 210ページ

附属資料

1 基本計画（第5章）施策の体系 政策指標における現状値 283ページ

基本施策4-① 文化芸術活動の促進

26市民文化祭の参加者を増やします

市民文化祭見学者数 12,625人（令和元年度時点）

【評価対象事業】

64市民文化祭事業

市民会館・公民館

29文化・芸術の鑑賞の機会を増やします

市内公募展見学者数 6,641人（令和2年度時点）

武藤順九彫刻園見学者数 12,433人（令和2年9月）

【評価対象事業】

65文化振興事業

企画政策課

30文化・芸術の活動をする人を増やします

市民文化祭出展者数 574名（令和元年度時点）

【評価対象事業】

64市民文化祭事業

市民会館・公民館

市内公募展応募人数 46名（令和2年度時点）

【評価対象事業】

65文化振興事業

企画政策課

基本施策4-② 文化財の保護・調査・活用

31あきしま郷土芸能まつり参加者数を増やします

あきしま郷土芸能まつり来場者数 49,000人（令和元年度時点）

【評価対象事業】

66観光産業振興推進事業（112再掲）

産業活性課

郷土資料室・郷土資料展示室入室者数 47,028人（令和2年時点）

【評価対象事業】

67文化財保護事業

アキシマエンシス管理課

基本施策4-③ スポーツ・レクリエーションの振興

33週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合を増やします

週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合 44.2%（令和2年時点）

【評価対象事業】

68スポーツ推進委員事務

スポーツ振興課

69スポーツ団体補助事業

スポーツ振興課

70スポーツ・レクリエーションイベント事業

スポーツ振興課

71総合スポーツセンター管理運営事務

スポーツ振興課

72みほり体育館管理運営事務

スポーツ振興課

73運動施設管理運営事務

スポーツ振興課

34スポーツ・レクリエーションを通して、高齢者の外出機会を増やし、健康増進を図ります

イキイキ・ニコニコ介護予防教室 開催 47回・参加者数 677人（令和2年時点）

【評価対象事業】

74高齢者各種教室事業

介護福祉課

基本施策4-④ 図書館活動の充実

35市民一人当たりの図書貸出冊数を増やします

市民一人当たりの図書貸出冊数 5.6冊（令和2年時点）

市民図書館の登録者数 32,868人（28.9%）（令和2年度末時点）

【評価対象事業】

75市民図書館管理運営事務

アキシマエンシス管理課

基本施策4-⑤ 生涯を通じた学習活動の推進

37アキシマエンシス入館者を増やします

アキシマエンシス入館者数 289,004人（令和2年度時点）

【評価対象事業】

76アキシマエンシス管理運営事務

アキシマエンシス管理課

38生涯学習講座など活動の充実を図り、参加者の学習意欲を広げます

生涯学習講座などの参加者数 社会教育課主催事業 330人（令和元年度時点）

【評価対象事業】

77生涯学習事業

社会教育課

市民会館・公民館主催事業 1,936人（令和元年度時点）

【評価対象事業】



78学級・講座等事業

市民会館・公民館

令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名		市民文化祭事業					事業開廃年度		-		
									継続		
基本データ	予算科目	10	項	04	目	07	細目	005	細々目	01	
	款名	教育費					部	生涯学習部		課長	小林 愛
							課	市民会館・公民館		担当	森山 陽子
							係	事業		電話	544-1407
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-①文化芸術活動の促進 市民文化祭の参加者を増やします					個別計画		教育振興基本計画 文化芸術基本計画		
	根拠法令等	文化芸術基本法,社会教育法,市文化芸術振興条例,文化芸術の振興に関する基本方針,市民文化祭開催要項					法令による事業実施義務		<input type="checkbox"/> 義務(<input type="checkbox"/> 市上乗せあり) <input checked="" type="checkbox"/> 任意(<input type="checkbox"/> 都補助等あり)		
	SDG's17の目標	 4 質の高い教育をみんなに									
事業の概要	事業概要	対象			目的						
		市民・市民団体			文化芸術振興は、心豊かな活力ある社会形成のために重要な意義がある。市民に日頃の文化・芸術活動の成果を発表できる機会を提供し、生きがいつくりや市民相互の交流を図る。						
	実施内容	○10月5日～11月3日（11日間） ○主催：昭島市・昭島市教育委員会 主管：昭島市民文化祭運営委員会 ○参加：27部門（69団体） ○演奏・演芸（歌謡、民謡、芸能、邦楽、フラダンス、合唱、音楽、ジャズ、器楽、朗読、人形劇、落語） ○展示（手工芸、平和、陶芸、華道、俳句、山野草、盆栽、短歌、書道、科学、美術、写真） ○対局・その他（将棋、囲碁、茶会）									
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考<特財名称等>			
	直接事業費		千円	2,563	3,283	2,773	2,917				
	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他特定財源	千円								
	一般職員人件費		千円	9,936	10,207	10,207	10,400				
	人工数		人	1.20	1.20	1.20	1.20				
	再任用職員人件費		千円								
	人工数		人								
再任用代替会計年度任用職員人件費		千円									
人工数		人									
総事業費		千円	12,499	13,490	12,980	13,317					
基本施策の現状値						(時点)	R4実績	R5実績	R6実績		
市民文化祭見学者数 12,625人						令和元年度	9,566人	10,695人	11,124人		
文化・芸術の活動をする人を増やします 市民文化祭出展者数 574名						令和元年度	460人	576人	494人		
事業の評価	実施方法の妥当性		3	市及び教育委員会が主催し、参加団体から選出された市民で構成する文化祭運営委員会が運営している。運営委員は各部門の代表者で構成されており、実施方法は妥当であると考え。							
	実施方法の効率性		3	事業計画の提出を受け、補助金額を決定し交付している。事業終了後に提出される実績報告書を審査し補助金額を確定、余剰金が発生した場合は返還することとしている。							
	達成度（基本施策の実績）		1	市民文化祭見学者数は11,124人でコロナ禍前の水準へ回復傾向にある一方、出展者数は安定していない。							
	DXへの取組		検討中			AI・RPA導入の可能性		該当事務なし			
	個別評価	合計点	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持							
達成度（基本施策の実績）		総合評価		日頃の活動の成果を発表する場として、また市民相互の交流や文化芸術の振興に大きな役割果たす市民文化祭は、各部門の代表者で構成する運営委員会と連携を図りながら実施することができている一方、参加団体構成員の高齢化に伴い、新たな担い手の発掘及び育成等が課題である。 除湿温度保持機能等復旧工事に伴う市民会館・公民館の休館期間中においても、引き続き市民文化祭運営委員会と連携を図り、開催方法等を検討していく。							



令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名		文化振興事業							事業開廃年度		-				
									継続						
基本データ	予算科目	款	02	項	01	目	01	細目	019	細々目	01	部	企画部	課長	村山 純
		款名	総務費							課	企画政策課	担当	中村 優子		
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-①文化芸術活動の促進 市民文化祭の参加者を増やします							係	企画調整担当	電話	内線2374			
	根拠法令等	文化芸術基本法							個別計画						
	SDG's17の目標	 4 質の高い教育をみんなに							法令による事業実施義務		<input type="checkbox"/> 義務(<input type="checkbox"/> 市上乗せあり) <input checked="" type="checkbox"/> 任意(<input type="checkbox"/> 都補助等あり)				
事業の概要	事業概要	対象			目的										
	実施内容	市民			文化芸術の主役である、市民のみなさまの活動がさらに発展するよう、そして、子どもから高齢者、障害者など市民の誰もが文化芸術を身近で味わい、心豊かで潤いのある暮らしを実感できるよう努める。										
		文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策との有機的な連携を図り、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用するなど、文化芸術施策を総合的かつ計画的に推進する。													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考<特財名称等>							
	直接事業費		千円	3,450	3,540	3,374	3,630								
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円												
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円												
		一般財源	千円	3,450	3,540	3,374	3,630								
	一般職員人件費		千円	828	851	851	867								
	人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10								
	再任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	総事業費		千円	4,278	4,391	4,225	4,497								
	基本施策の現状値												(時点)	R4実績	R5実績
市内公募展見学者数 6,641人							令和2年度						8,212人	6,382人	6,345人
武藤順九彫刻園見学者数 5,077人							令和2年9月	12,454人	13,682人	12,797人					
文化・芸術の活動をする人を増やします 市内公募展応募人数 46名							令和2年度	55人	60人	48人					
事業の評価	実施方法の妥当性		3	市内公募展、武藤順九彫刻園ともに多くの市民が来場しており、実施方法として妥当と考える。											
	実施方法の効率性		3	武藤順九彫刻園見学者数は、計測器故障による欠測や臨時休園の影響で減少となったが、実績が例年通りと仮定した場合、増加傾向にある。また、市内公募展公募人数は減少した。											
	達成度（基本施策の実績）		3	武藤順九彫刻園見学者数は上記理由により増加傾向にある。また、市内公募展応募人数は減少したものの作品展示数や市内公募展見学者数はほぼ横ばいである。											
	DXへの取組		検討中			AI・RPA導入の可能性		該当事務なし							
	個別評価	合計点	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持											
 達成度（基本施策の実績） 5 4 3 2 1 0 実施方法の効率性		総合評価	文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用するなど、文化芸術施策を総合的かつ計画的に推進できている。今後は文化芸術推進基本計画推進委員会での議論も踏まえ、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策との有機的な連携を図っていく。												


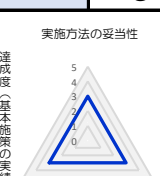
令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名		観光産業振興推進事業						事業開廃年度		平成22年度 継続				
基本データ	予算科目	07	項	01	目	02	細目	008	細々目	01	部	市民部	課長	森田 晃
	款名	商工費						課	産業活性化課	担当	鈴木 佳恵			
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-②文化財の保護・調査・活用 あきしま郷土芸能まつり参加者数を増やします						係	産業振興係	電話	内線2282			
	根拠法令等	一般社団法人昭島観光まちづくり協会補助金交付要綱 あきしま「郷土芸能まつり」事業補助金交付要綱						個別計画		昭島市産業振興計画 (平成29年度～令和8年度)				
SDG's17の目標	 11 住み続けられるまちづくりを													
事業の概要	事業概要	対象			目的									
	実施内容	昭島観光まちづくり協会（あきしま郷土芸能まつり実行委員会）			観光まちづくり協会が観光事業や市のPR事業を円滑に行えるよう事業費を補助する。また、郷土芸能まつり実行委員会があきしま郷土芸能まつりを円滑に開催できるよう事業費を補助する。									
		*観光まちづくり協会：観光まちづくり協会の運営（観光案内所の運営を含む。）に要する経費を補助。観光案内所イベント、フォトコンテスト（応募数308点）、町あるき（全10回）、昭島ロケーションサービス事業（撮影実績138回）、観光案内所運営（来所数16,294人） *郷土芸能まつり：あきしま郷土芸能まつりの開催に要する経費を実行委員会（事務局：観光まちづくり協会）に補助。市制施行70周年記念とし、前夜祭・本祭において伝統芸能を体験してもらつイベントを実施。												
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考<特財名称等>						
	直接事業費		千円	28,060	27,560	28,460	31,600							
	財源内訳	国庫支出金	千円											
		都支出金	千円	1,000										
		地方債	千円											
		その他特定財源	千円											
	一般職員人件費		千円	1,656	1,701	851	1,733							
	人工数		人	0.20	0.20	0.10	0.20							
	再任用職員人件費		千円											
	人工数		人											
再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
人工数		人												
総事業費		千円	29,716	29,261	29,311	33,333								
基本施策の現状値						(時点)	R4実績	R5実績	R6実績					
あきしま郷土芸能まつり来場者数 49,000人						令和元年度	方法を変更し実施	規模を縮小しての屋外開催	48,000					
事業の評価	実施方法の妥当性		3	平成22年度に設立された観光まちづくり協会は、昭島の観光事業や市の魅力をPRするためには必要不可欠であり、協会の公益事業の運営に要する経費のうち、管理運営費について補助金を交付している。また、あきしま郷土芸能まつりを円滑に開催するためには事業費の補助が必要である。										
	実施方法の効率性		4	両補助金とも、事業実施前に事業計画の提出を受け補助金額を決定し、補助金を交付。事業終了後、実績報告書が提出されている。内容の審査を行い、補助金額を確定し、余剰金が発生している場合は返還している。										
	達成度（基本施策の実績）		4	あきしま郷土芸能まつりは市制施行70周年記念とし、前夜祭の実施や拝島3町の人形屋台建上げ、友好都市岩手県岩泉町より中野七頭舞の招聘など規模を拡大し実施した。来場者数もコロナ禍以前に戻りつつあることから、両補助金の交付により、市内外からの集客及び昭島の魅力の発信、市民の郷土への愛着心と地域のふれあいが高まった。										
	DXへの取組		予定なし	AI・RPA導入の可能性		該当事務なし								
	個別評価	合計点	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持										
達成度（基本施策の実績）		総合評価		あきしま郷土芸能まつりについて、市制施行70周年記念の祭りということもあり、前夜祭の実施や拝島3町の人形屋台建上げ、友好都市岩手県岩泉町より中野七頭舞の招聘、キッズ体験、ふれあい体験なイベントの充実を図り48,000人の来場者となった。また、観光案内所の来所者数も昨年度の14,729人から16,294人と増加した。令和7年度以降も、あきしま郷土芸能まつりを含めた観光事業全般について、引き続き市の魅力発信を行っていく。										


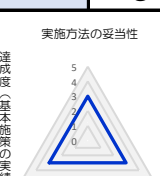
令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名		文化財保護事業						事業開廃年度		-				
										継続				
基本データ	予算科目	10	項	04	目	03	細目	002	細々目	01	部	生涯学習部	課長	勝野 玄隆
	款名	教育費						課	アキシマエッセンス管理課	担当	川村 裕介			
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-②文化財の保護・調査・活用 郷土資料室の見学者を増やします						係	文化財係	電話	519-5717			
	根拠法令等	文化財保護法・昭島市文化財保護条例						法令による事業実施義務		<input checked="" type="checkbox"/> 義務(<input type="checkbox"/> 市上乗せあり) <input type="checkbox"/> 任意(<input type="checkbox"/> 都補助等あり)				
SDG's17の目標	 4 質の高い教育をみんなに													
事業の概要	事業概要	対象			目的									
	実施内容	市民、文化財の所有者、管理者及び保存団体（保持者）等			文化財の保護・保存・継承をするとともに、広く文化財を公開することによって、文化財保護思想の高揚・普及・啓発を行い、郷土資料室の見学者増を図る。									
		<ul style="list-style-type: none"> 文化財めぐりや文化財講演会等、文化財への理解促進及び次世代への継承に繋がる事業を実施。 指定文化財の保護及び保存のため事業、後継者育成に係る補助を推進。 郷土資料室において、常設展示の充実及び文化財の理解が深まるICTを活用したコンテンツを提供。新市指定文化財を取り上げた古文書の展示等、分野ごとに特化した4つのテーマで企画展を開催。 												
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考<特財名称等>						
	直接事業費		千円	4,445	1,510	1,974	1,973	【その他特定財源】 ・各種印刷物頒布代金 ・市民総合賠償補償保険金 ・地域伝統芸能等保存事業助成金						
	財源内訳	国庫支出金	千円											
		都支出金	千円											
		地方債	千円											
		その他特定財源	千円	1,407	395	331	395							
		一般財源	千円	3,038	1,115	1,643	1,578							
	一般職員人件費		千円	4,968	5,104	5,104	5,200							
	人工数		人	0.60	0.60	0.60	0.60							
	再任用職員人件費		千円											
人工数		人												
再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
人工数		人												
総事業費		千円	9,413	6,614	7,078	7,173								
基本施策の現状値							(時点)	R4実績	R5実績	R6実績				
郷土資料室・郷土資料展示室入室者数 47,028人							令和2年度	39,675人	40,103人	44,150人				
事業の評価	実施方法の妥当性	3	文化財保護思想の高揚・普及・啓発につながるよう、郷土資料室企画展についてテーマや内容に工夫を凝らし継続し開催することで、市民の興味を引き続けることができ、前年度より見学者を増やすことができた。											
	実施方法の効率性	4	企画展・企画事業の充実に努めることで、文化財に身近に親しむことのできる機会を提供することができた。											
	達成度（基本施策の実績）	2	郷土資料室・郷土資料展示室入室者数について、前年度（令和5年度）比は10.1%の増であるが、令和2年度比では6.2%減。											
	DXへの取組	予定なし			AI・RPA導入の可能性	該当事務なし								
	個別評価	合計点 9	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持										
		総合評価		文化財保護事業においては、指定文化財に対する補助を通じて保護・保存するとともに各種事業、郷土資料室企画展の実施等で広く文化財保護思想の普及に努め、市民共有の財産として次世代に確実に継承することが重要である。文化財の保護・調査・活用をより活性化していくため、引き続き適切な取組を実施する。										



令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名		スポーツ推進委員事務					事業開廃年度		-						
									継続						
基本データ	予算科目	款	10	項	05	目	01	細目	003	細々目	01	部	生涯学習部	課長	吉村 久実
		款名	教育費					課	スポーツ振興課	担当	細谷 隆宏				
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-③ スポーツ・レクリエーションの振興 週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合を増やします					係	スポーツ振興係	電話	2247					
	根拠法令等	スポーツ基本法 スポーツ推進委員に関する規則					個別計画		スポーツ推進計画 令和4年度～令和8年度						
	SDG's17の目標	 3 すべての人に健康と福祉を					法令による事業実施義務	<input checked="" type="checkbox"/> 義務(<input type="checkbox"/> 市上乗せあり) <input type="checkbox"/> 任意(<input type="checkbox"/> 都補助等あり)							
事業の概要	事業概要		対象				目的								
			スポーツ推進委員事務				スポーツ推進委員活動を円滑に進める。								
	実施内容		スポーツ推進委員の報酬、旅費、貸与品、スポーツ安全保険加入等の事務処理及び活動支援												
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考<特財名称等>							
	直接事業費		千円	2,467	2,977	2,501	2,757								
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円												
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円												
		一般財源	千円	2,467	2,977	2,501	2,757								
	一般職員人件費		千円	4,140	4,253	4,253	4,334								
		人工数	人	0.50	0.50	0.50	0.50								
	再任用職員人件費		千円												
		人工数	人												
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
		人工数	人												
	総事業費		千円	6,607	7,230	6,754	7,091								
	基本施策の現状値						(時点)	R4実績	R5実績	R6実績					
週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合						44.2%	令和元年度	調査未実施	45.0%	調査未実施					
事業の評価	実施方法の妥当性		3	各種イベント運営の協力や自主事業等を実施していることから妥当であると考えられる。											
	実施方法の効率性		3	対面での定例会を実施しているが、出張等も重なった委員からオンラインでの参加の打診がありオンラインでの参加も行ったが、全員でのオンライン会議の開催は困難であると考えられる。											
	達成度（基本施策の実績）		3	令和5年度実施の市民意識調査結果より											
	DXへの取組		検討中			AI・RPA導入の可能性		該当事務なし							
	個別評価	合計点	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持											
 達成度（基本施策の実績） 実施方法の効率性		総合評価		昨年度に引き続き、各種イベントを開催しており、参加人数も徐々に増加している。また、他市との交流や研修会についても積極的に提案、実施しており、交通費の増額が必要となっている。											



令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名		スポーツ団体補助事業						事業開廃年度		-					
										継続					
基本データ	予算科目	10	項	05	目	01	細目	008	細々目	01	部	生涯学習部	課長	吉村 久実	
	款名	教育費						課	スポーツ振興課	担当	細谷 隆宏				
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-③ スポーツ・レクリエーションの振興 週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合を増やします						係	スポーツ振興係	電話	2247	個別計画		スポーツ推進計画 令和4年度～令和8年度	
	根拠法令等	スポーツ基本法 昭島市スポーツ団体補助金交付要綱						法令による事業 実施義務		<input type="checkbox"/> 義務(<input type="checkbox"/> 市上乗せあり) <input checked="" type="checkbox"/> 任意(<input type="checkbox"/> 都補助等あり)					
SDG's17の目標	 3 すべての人に健康と福祉を														
事業の概要	事業概要		対象			目的									
			市民スポーツ団体			市民の自主的なスポーツ活動を補助し、地域スポーツの発展を図る。									
実施内容		次の団体に補助金を交付した。 スポーツ協会（2,430,000円）、リトルリーグ野球協会（100,000円）、少年野球連盟（100,000円）、早朝軟式野球連盟（100,000円）、フットベース協会（50,000円）、昭島くじらスポーツクラブ（200,000円）													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考<特財名称等>							
	直接事業費		千円	3,030	2,980	2,980	3,030								
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円												
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円												
		一般財源	千円	3,030	2,980	2,980	3,030								
	一般職員人件費		千円	828	851	851	867								
	人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10								
	再任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
人工数		人													
総事業費		千円	3,858	3,831	3,831	3,897									
基本施策の現状値						(時点)	R4実績	R5実績	R6実績						
週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合						44.2%	令和元年度	調査未実施	45.0%	調査未実施					
事業の評価	実施方法の妥当性		3	昭島市スポーツ団体補助金交付要綱に基づき、補助金を支出した。											
	実施方法の効率性		3	市のスポーツ団体の発展を図るための補助事業であり、各団体において毎年総会を開催し、予算・決算及び事業計画を報告させることで効率的な運営に努めている。											
	達成度（基本施策の実績）		3	各団体の活動が、市民のスポーツ活動普及に繋がっていると考えられる。											
	DXへの取組		検討中			AI・RPA導入の可能性		該当事務なし							
	個別評価	合計点	9	今後の方向性	(前年度 現状を維持) →		E		現状を維持						
 達成度（基本施策の実績） 実施方法の効率性		総合評価		自主財源の確保や効率的な組織運営等についての指導等も実施し最終的には補助金を必要とせずに運営を行えるよう指導を行う必要があると思われるが、現状では困難な状態であると考えられる。											



令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名		スポーツ・レクリエーションイベント事業						事業開廃年度		-						
								継続								
基本データ	予算科目	款	10	項	05	目	01	細目	011	細々目	01	部	生涯学習部	課長	吉村 久実	
		款名	教育費						課	スポーツ振興課	担当	細谷 隆宏				
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-③ スポーツ・レクリエーションの振興 週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合を増やします						係	スポーツ振興係	電話	2247					
	根拠法令等	スポーツ基本法						個別計画		スポーツ推進計画 令和4年度～令和8年度						
	SDG's17の目標	 3 すべての人に健康と福祉を						法令による事業実施義務	<input type="checkbox"/> 義務(<input type="checkbox"/> 市上乗せあり) <input checked="" type="checkbox"/> 任意(<input type="checkbox"/> 都補助等あり)							
事業の概要	事業概要	対象				目的										
	実施内容	市民				老若男女・障害のあるなしに関わらず誰でも参加ができるイベント等を実施し、市民のスポーツ実施率の向上を図る。										
		①親子ふれあいスポーツデー（3回、137人）、②スポーツ・レクリエーションフェスティバル（2,284人） ③ポッチャ昭島カップ（52人）、④ポッチャ体験会（3回、56人）、⑤モルック体験会（1回、22人） ⑥自治会ブロック対抗スポーツ大会（60人）														
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考<特財名称等>								
	直接事業費		千円	542	395	339	433									
	財源内訳	国庫支出金	千円													
		都支出金	千円	168												
		地方債	千円													
		その他特定財源	千円	30												
		一般財源	千円	344	395	339	433									
	一般職員人件費		千円	1,656	1,701	1,701	1,733									
		人工数	人	0.20	0.20	0.20	0.20									
	再任用職員人件費		千円													
		人工数	人													
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円													
	人工数	人														
総事業費		千円	2,198	2,096	2,040	2,166										
基本施策の現状値						(時点)	R4実績	R5実績	R6実績							
週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合						44.2%	令和元年度	調査未実施	45.0%	調査未実施						
事業の評価	実施方法の妥当性	3	個別のイベントを同一科目で実施したことにより消耗品等の支出削減に繋がっていると考えられる。													
	実施方法の効率性	3	個別のイベントを同一科目で実施したことにより効率性があがったと考えられる。													
	達成度（基本施策の実績）	3	令和5年度実施の市民意識調査結果より													
	DXへの取組	予定なし				AI・RPA導入の可能性	該当事務なし									
	個別評価	合計点	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持												
	9															
	 達成度（基本施策の実績） 実施方法の効率性	総合評価	個別のイベントを同一科目で実施することにより業務の効率化を図ることに繋がったと考えられる。													


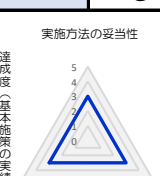
令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名		総合スポーツセンター管理運営事務						事業開廃年度		- 継続					
基本データ	予算科目	款	10	項	05	目	02	細目	001	細々目	01	部	生涯学習部	課長	吉村 久実
		款名	教育費						課	スポーツ振興課	担当	細谷 隆宏			
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-③ スポーツ・レクリエーションの振興 週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合を増やします						係	スポーツ振興係	電話	2247				
	根拠法令等	スポーツ基本法 昭島市総合スポーツセンター条例						個別計画		スポーツ推進計画 令和4年度～令和8年度					
	SDG's17の目標	 3 すべての人に健康と福祉を						法令による事業実施義務	<input type="checkbox"/> 義務(<input type="checkbox"/> 市上乗せあり) <input checked="" type="checkbox"/> 任意(<input type="checkbox"/> 都補助等あり)						
事業の概要	事業概要	対象 市民・団体等				目的 総合スポーツセンターにおいてスポーツ及びレクリエーションの普及・振興を図り、市民の心身の健全な発達に寄与する。									
	実施内容	施設の管理運営及び各種スポーツ教室を民間委託により実施することで効率的な運営を図るとともに、スポーツ及びレクリエーションの普及・振興を推進する。 【団体利用】(6,190件、96,021人)【個人利用】94,448人、【駐車場利用台数】64,743台													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考<特財名称等>							
	直接事業費		千円	249,595	256,816	232,382	609,747	【その他特定財源】 ・行政財産使用料 ・総合スポーツセンター使用料 ・公共施設整備等資金積立基金繰入金 ・庁舎等光熱水費 ・複写機利用料 ・各種講習会等負担金 ・電話料 ・総合スポーツセンター整備事業債							
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円	3,000	20,500	13,500	106,552								
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円	54,673	68,752	53,154	342,636								
		一般財源	千円	191,922	167,564	165,728	160,559								
	一般職員人件費		千円	1,656	1,701	1,701	1,733								
	人工数		人	0.20	0.20	0.20	0.20								
	再任用職員人件費		千円	3,241	3,346	3,346	3,962								
人工数		人	0.70	0.70	0.70	0.70									
再任用代替会計年度任用職員人件費		千円													
人工数		人													
総事業費		千円	251,251	258,517	234,083	611,480									
基本施策の現状値							(時点)	R4実績	R5実績	R6実績					
週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合							44.2%	令和元年度	調査未実施	45.0%	調査未実施				
事業の評価	実施方法の妥当性		3	運営方法について指定管理者制度の導入も検討されているが、施設老朽化が進んでおり、現状のままとなっている。											
	実施方法の効率性		3	大規模改修工事を実施していないため支出額は減少しているが、修繕ヶ所が増加傾向にあり修繕費の割合が増えている。											
	達成度（基本施策の実績）		3	令和5年度実施の市民意識調査結果より											
	DXへの取組		検討中			AI・RPA導入の可能性		該当事務なし							
	個別評価	合計点	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持											
 達成度（基本施策の実績）		総合評価	施設の老朽化が進行しており、予算要求時では想定していない修繕なども発生していることから延命措置だけではなく建替えについても検討が必要な時期となっていると考えられる。 また建替えにあたっては、PFI等の導入等財源確保についても併せて検討する必要があると考えられる。												



令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名		みほり体育館管理運営事務					事業開廃年度		- 継続						
基本データ	予算科目	款	10	項	05	目	02	細目	002	細々目	01	部	生涯学習部	課長	吉村 久実
		款名	教育費					課	スポーツ振興課	担当	細谷 隆宏				
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-③ スポーツ・レクリエーションの振興 週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合を増やします					係	スポーツ振興係	電話	2247					
	根拠法令等	スポーツ基本法 昭島市みほり体育館条例					個別計画		スポーツ推進計画 令和4年度～令和8年度						
	SDG's17の目標	 3 すべての人に健康と福祉を					法令による事業実施義務	<input type="checkbox"/> 義務(<input type="checkbox"/> 市上乗せあり) <input checked="" type="checkbox"/> 任意(<input type="checkbox"/> 都補助等あり)							
事業の概要	事業概要	対象			目的										
	実施内容	市民・団体等			みほり体育館においてスポーツ及びレクリエーションの普及・振興を図り、市民の心身の健全な発達に寄与する。										
		≪体育館≫ 【団体利用】（706件、6,970人）【個人利用】843人 ≪研修室≫ 206件、940人													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考<特財名称等>							
	直接事業費		千円	34,882	25,971	19,045	12,765	【その他特定財源】							
	財源内訳	国庫支出金	千円					・みほり体育館使用料							
		都支出金	千円	12,000	14,950	11,119	126	・庁舎等光熱水費							
		地方債	千円					・雇用保険料							
		その他特定財源	千円	1,269	1,797	1,443	2,785								
	一般職員人件費		千円	2,484	2,552	2,552	2,600								
	人工数		人	0.30	0.30	0.30	0.30								
	再任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	総事業費		千円	37,366	28,523	21,597	15,365								
	基本施策の現状値						(時点)	R4実績	R5実績	R6実績					
	週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合						44.2%	令和元年度	調査未実施	45.0%	調査未実施				
実施方法の妥当性		3	運営方法の見直しとして指定管理者制度の導入も検討したが、他の運動施設との兼ね合いから現在の方法とした。												
実施方法の効率性		3	大規模工事を実施しないため、事業費は減少している。												
達成度（基本施策の実績）		3	令和5年度実施の市民意識調査結果より												
DXへの取組		予定なし			AI・RPA導入の可能性	該当事務なし									
個別評価	合計点	9	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持											
 達成度（基本施策の実績） 実施方法の効率性		総合評価		令和5年度に空調機設置工事を実施したことにより、スポーツ振興課所管施設では市内で唯一の空調設備を有する屋内運動施設となっており、昨今の夏季期間における高温時にも安心安全に利用が出来る施設となっている。 運営方法については、直営にて実施しているが、総合スポーツセンター等と併せて指定管理者制度等の導入も検討する必要があると考えられる。											


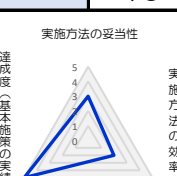
令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名		運動施設管理運営事務						事業開廃年度		-					
								継続							
基本データ	予算科目	款	10	項	05	目	03	細目	001	細々目	01	部	生涯学習部	課長	吉村 久実
		款名	教育費						課	スポーツ振興課	担当	細谷 隆宏			
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-③ スポーツ・レクリエーションの振興 週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合を増やします						係	スポーツ振興係	電話	2247				
	根拠法令等	スポーツ基本法 昭島市都市公園条例						個別計画		スポーツ推進計画 令和4年度～令和8年度					
	SDG's17の目標	 3 すべての人に健康と福祉を						法令による事業実施義務		<input type="checkbox"/> 義務(<input type="checkbox"/> 市上乗せあり) <input checked="" type="checkbox"/> 任意(<input type="checkbox"/> 都補助等あり)					
事業の概要	事業概要	対象				目的									
	実施内容	市民・団体等				市内屋外運動施設においてスポーツ及びレクリエーションの普及・振興を図り、市民の心身の健全な発達に寄与する。									
		市内の屋外運動を良好な状態に保つため、維持管理作業を民間に委託して実施している。 <<利用実績>> 昭和公園【市民球場（214件、731回、30,406人）、陸上競技場（449回、48,625人）、テニスコート（4,642回、38,476人）】大神公園（1,519回、57,817人）、くじら運動公園（5,564回、150,308人）、美ノ宮公園（318回、5,160人）													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考<特財名称等>							
	直接事業費		千円	59,384	84,558	80,812	65,979	【その他特定財源】 ・昭和公園運動施設等 使用料 ・庁舎等光熱水費 ・施設命名権料							
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円		11,500	10,500	1,230								
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円	32,343	33,450	35,392	28,143								
	一般職員人件費		千円	4,140	4,253	4,253	4,334								
	人工数		人	0.50	0.50	0.50	0.50								
	再任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
再任用代替会計年度任用職員人件費		千円													
人工数		人													
総事業費		千円	63,524	88,811	85,065	70,313									
基本施策の現状値							(時点)	R4実績	R5実績	R6実績					
週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合							44.2%	令和元年度	調査未実施	45.0%	調査未実施				
事業の評価	実施方法の妥当性		3	運営方法の見直しとして指定管理者制度の導入も検討したが、他の運動施設との兼ね合いから現在の方法とした。											
	実施方法の効率性		3	委託により実施していることで職員の負担軽減に繋がり、効率性が上がっていると考えられる。											
	達成度（基本施策の実績）		3	令和5年度実施の市民意識調査結果より											
	DXへの取組		予定なし			AI・RPA導入の可能性		該当事務なし							
	個別評価	合計点	9	今後の方向性	(前年度 コスト改善に向けて実施方法を見直し) → B コスト改善に向けて実施方法を見直し										
 達成度（基本施策の実績） 実施方法の効率性		総合評価		市民球場は開設から15年を経過し、外壁及び付帯設備について大規模修繕が必要となっている施設である。また、陸上競技場やテニスコート等の他の施設についても経年劣化による修繕も実施する必要があり、指定管理者制度の導入や料金改定等も検討しなければならないと考えられる。											


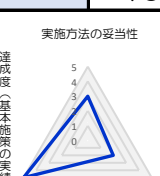
令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名		高齢者各種教室事業						事業開廃年度		平成24年度 継続					
基本データ	予算科目	03	項	01	目	04	細目	014	細々目	01	部	保健福祉部	課長	小森 裕介	
	款名	民生費						課	介護福祉課	担当	細井 孝洋	係	高齢者支援係	電話	2158
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-③ スポーツ・レクリエーションの振興 週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合を増やします						個別計画		第9期昭島市介護保険事業計画（R6～R8）					
	根拠法令等	老人福祉法第13条、昭島市高齢者イキイキ・ニコニコ介護予防事業実施要綱						法令による事業実施義務		<input checked="" type="checkbox"/> 義務(<input type="checkbox"/> 市上乗せあり) <input checked="" type="checkbox"/> 任意(<input type="checkbox"/> 都補助等あり)					
	SDG's17の目標			3 すべての人に健康と福祉を											
事業の概要	事業概要	対象			目的										
	実施内容	65歳以上で介護保険における要介護及び要支援の認定を受けていない市民			介護予防や健康増進を図るための各種教室の実施により、介護予防に寄与し、仲間づくりや高齢者の活動の場を提供することで、活力ある地域社会づくりの構築に努める。										
		○イキイキ・ニコニコ介護予防教室として、軽体操・ウォーキング・書道教室・フラダンス・健康スポーツ吹き矢・インターネット教室・陶芸・着付け・脳のトレーニング・英会話・カラオケ教室・健康気功・太極拳・スマホ教室・合唱・手でわかる健康実践・口腔ケア・傾聴ボランティアの各講座を12回（3か月）を1クールとして、3クール開催 ○元気あつらつ健口講座として、口腔ケアの重要性を学ぶ講座を6回（週1回を目安に約2か月）を1クールとして、2クール開催													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考<特財名称等>							
	直接事業費		千円	7,912	9,136	8,953	9,057	【その他特定財源】 ・福祉サービス事業利用者負担金							
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円	4,658	5,342	5,348	5,294								
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円	924	1,122	929	1,116								
	一般職員人件費		千円	2,484	2,552	2,552	2,600								
	人工数		人	0.30	0.30	0.30	0.30								
	再任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	総事業費		千円	10,396	11,688	11,505	11,657								
	基本施策の現状値							(時点)	R4実績	R5実績	R6実績				
	イキイキ・ニコニコ介護予防教室 開催 47回							令和2年度	64回	68回	67回				
参加者数 677人							令和2年度	971人	1083人	1019人					
事業の評価	実施方法の妥当性	2	高齢者の就労の機会を多く提供することも事業目的のひとつとしているため、当該講座はシルバー人材センターやNPO法人ひだまりに委託していることから、他の方法を検討せず、前年度の方法を踏襲した。												
	実施方法の効率性	2	昨今の物価高騰に伴う人件費等の上昇により委託料が増加したため、R5年度に比べコストが約11%増加した。一方で、一部の口座で定員を増やしたものの、参加者数は一部の教室が講師都合により中止になったこと等が影響し横ばいであった。以上より評価は2とする												
	達成度（基本施策の実績）	4	基本施策の現状値（R2）から増減10%以上を達成しているが、R2はコロナ禍であったため規模を縮小して実施していることから評価は4としたい。												
	DXへの取組	予定なし			AI・RPA導入の可能性	該当事務なし									
	個別評価	合計点 8	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持											
		総合評価	物価高騰による委託料の上昇、コストの増加は今後も続くと考えられる。一方で、イキイキ・ニコニコ介護予防教室はほぼすべての講座で応募者が定員を上回っており、本事業に対する市民のニーズは高いものと思われる。今後も、市民のニーズを反映させた事業の運営を、委託先の各法人と協議し、本事業を継続していく。												

令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名		市民図書館管理運営事務					事業開廃年度		昭和48年度 継続					
基本データ	予算科目	10	項	04	目	05	細目	003	細々目	01	部	生涯学習部	課長	勝野 玄隆
	款名	教育費					課	アキシマエッセンス管理課	担当	渡辺 まさみ				
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-④ 図書館活動の充実 市民一人当たりの図書貸出冊数を増やします					係	管理係	電話	519-2211				
	根拠法令等	図書館法、公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準、昭島市民図書館条例、昭島市民図書館運営規則、昭島市教育福祉総合センター条例					個別計画		昭島市民図書館基本方針・基本計画、昭島市子ども読書活動推進計画（R4年度～R8年度）					
	SDG's17の目標	 4 質の高い教育をみんなに					法令による事業実施義務		<input type="checkbox"/> 義務(<input type="checkbox"/> 市上乗せあり) <input checked="" type="checkbox"/> 任意(<input type="checkbox"/> 都補助等あり)					
事業の概要	事業概要	対象			目的									
	実施内容	市民			「学び、習い、楽しみ、育む知の拠点～本と情報を仲立ちとして人が集い、つながり、新たな価値を創造する場を目指して～」を基本理念とした図書館運営を行う。									
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考<特財名称等>						
	直接事業費		千円	209,793	243,551	243,299	312,958	【その他特定財源】 ・特定防衛施設周辺整備調整交付金事業基金 繰入金						
	財源内訳	国庫支出金	千円											
		都支出金	千円	304	330		350							
		地方債	千円											
		その他特定財源	千円	35,000	31,200	31,200	42,000							
	一般財源	千円	174,489	212,021	212,099	270,608								
	一般職員人件費		千円	7,452	7,655	7,655	7,800							
	人工数		人	0.90	0.90	0.90	0.90							
	再任用職員人件費		千円											
	人工数		人											
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円											
	人工数		人											
	総事業費		千円	217,245	251,206	250,954	320,758							
	基本施策の現状値						(時点)	R4実績	R5実績	R6実績				
市民一人当たりの図書貸出冊数 5.6冊						令和2年度	6.6冊	6.5冊	6.2冊					
市民図書館の登録者数を増やします 市民図書館の登録者数 32,868人 (28.9%)						令和2年度末	43,256人	47,159人	50,800人					
事業の評価	実施方法の妥当性		3	指定管理者への評価・モニタリングにおける調査項目や調査方法について、より質の高いサービスに繋げることができている。										
	実施方法の効率性		2	多様化・複雑化している市民のニーズに的確に対応していくため、指定管理者を評価・モニタリングすることで、その能力を有効に活用し、より柔軟で質の高いサービスを提供することができるよう努めた。										
	達成度（基本施策の実績）		5	市民一人当たりの図書貸出冊数 5.6冊 → 6.2冊 (10.7%増) 市民図書館の登録者数 32,868人 → 50,800人 (54.6%増)										
	DXへの取組		予定なし	AI・RPA導入の可能性		該当事務なし								
	個別評価	合計点	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持										
 達成度（基本施策の実績） 実施方法の効率性		総合評価	新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行され、市民の行動に選択肢が大きく増える中、登録者数の増加及び図書貸出冊数維持という成果を上げることができた。指定管理者へ評価・モニタリング及び必要に応じて助言等を実施することにより、事業の推進に寄与することができた。											

令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名		アキシマエンス管理運営事務						事業開廃年度		令和2年度 継続					
基本データ	予算科目	款	10	項	01	目	05	細目	001	細々目	01	部	生涯学習部	課長	勝野 玄隆
		款名	教育費						課	アキシマエンス管理課	担当	渡辺 まさみ			
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-⑤ 生涯を通じた学習活動の推進 アキシマエンス入館者を増やします						係	管理係	電話	519-2211				
	根拠法令等	社会教育法、児童福祉法、昭島市教育福祉総合センター条例、昭島市教育福祉総合センター条例施行規則						個別計画		昭島市民図書館基本方針・基本計画、昭島市子ども読書活動推進計画（R4年度～R8年度）					
	SDG's17の目標	 3 すべての人に健康と福祉を						法令による事業実施義務		<input type="checkbox"/> 義務(<input type="checkbox"/> 市上乗せあり) <input checked="" type="checkbox"/> 任意(<input type="checkbox"/> 都補助等あり)					
事業の概要	事業概要	対象			目的										
	実施内容	市民 ・市民と情報、市民と市民をつなぎ、あぎしまの今を未来につなぐ場・市民一人一人の世界が広がり、交流の輪が広がる場・市民が自ら課題に向き合い、必要とする知識や情報、人とのつながりを見つける場・あぎしまの未来を創る市民を育む場をコンセプトに、施設の管理運営を行う。 アキシマエンスの管理運営は「昭島市教育福祉総合センター及び昭島市民図書館の管理に関する基本協定書」及び「昭島市教育福祉総合センター及び昭島市民図書館の管理に関する年度協定書」に基づき指定管理者が行う。指定管理業務について、目的達成に繋がる適切な評価・モニタリングを実施する。													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考<特財名称等>							
	直接事業費		千円	278,916	322,720	318,196	328,065	【その他特定財源】 ・行政財産使用料 ・アキシマエンス使用料 ・庁舎等光熱水費							
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円												
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円	1,305	1,357		6,864								
		一般財源	千円	277,611	321,363	318,196	321,201								
	一般職員人件費		千円	7,452	7,655	7,655	7,800								
	人工数		人	0.90	0.90	0.90	0.90								
	再任用職員人件費		千円												
人工数		人													
再任用代替会計年度任用職員人件費		千円													
人工数		人													
総事業費		千円	286,368	330,375	325,851	335,865									
基本施策の現状値							(時点)	R4実績	R5実績	R6実績					
アキシマエンス入館者数 289,004人							令和2年度	375,411人	401,825人	410,186人					
事業の評価	実施方法の妥当性		3	指定管理者への評価・モニタリングにおける調査項目や調査方法について、より質の高いサービスに繋げることができている。											
	実施方法の効率性		2	多様化・複雑化している市民のニーズに的確に対応していくため、指定管理者を評価・モニタリングすることで、その能力を有効に活用し、より柔軟で質の高いサービスを提供することができるよう努めた。											
	達成度（基本施策の実績）		5	アキシマエンス（国際交流教養文化棟）入館者数 289,004人 → 410,186人（41.9%増）											
	DXへの取組		予定なし	AI・RPA導入の可能性		該当事務なし									
	個別評価	合計点	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持											
 達成度（基本施策の実績） 実施方法の効率性		総合評価	新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行され、市民の行動に選択肢が大きく増える中、入館者数が増加するという成果を上げることができた。指定管理者へ評価・モニタリング及び必要に応じて助言等を実施することにより、事業の推進に寄与することができた。												

令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名		生涯学習推進事業					事業開廃年度		-					
									継続					
基本データ	予算科目	10	項	04	目	01	細目	005	細々目	01	部	生涯学習部	課長	泉井桃子
	款名	教育費					課	社会教育課		担当	秋山 勲			
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-⑤ 生涯を通じた学習活動の推進 生涯学習講座など活動の充実を図り、参加者の学習意欲を広げます					係	社会教育係		電話	内線 2254			
	根拠法令等						個別計画		昭島市教育振興基本計画 (令和4年度～令和8年度)					
SDG's17の目標	 4 質の高い教育をみんなに					法令による事業 実施義務		<input type="checkbox"/> 義務(<input type="checkbox"/> 市上乗せあり) <input checked="" type="checkbox"/> 任意(<input type="checkbox"/> 都補助等あり)						
事業の概要	事業概要	対象			目的									
	実施内容	市民			“誰一人取り残さない”を基本にだれもが、いつでも、どこでも気軽に学習し、家庭や地域の学習力を高めるための多様な学習活動が促進されるよう市民相互と地域のつながりを育てる生涯学習を推進する。									
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考<特財名称等>						
	直接事業費		千円	170	1,222	1,118	818	【その他特定財源】 ・各種講習会受講料						
	財源内訳	国庫支出金	千円											
		都支出金	千円	32	28	381	387							
		地方債	千円											
		その他特定財源	千円	20	112	64	129							
	一般職員人件費		千円	4,968	5,104	5,104	5,200							
	人工数		人	0.60	0.60	0.60	0.60							
	再任用職員人件費		千円											
	人工数		人											
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円	349	350	350	428							
	人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10							
	総事業費		千円	5,487	6,676	6,572	6,446							
	基本施策の現状値						(時点)	R4実績	R5実績	R6実績				
	生涯学習講座などの参加者数 社会教育課主催事業 330人						令和元年度	677	677	510				
事業の評価	実施方法の妥当性	3	生涯学習サポーター養成講座の受講生が設立した「昭島市生涯学習サポーターの会まなぶん」のメンバーが協力し生涯学習サポーター養成講座を実施している。「まなぶん」は自主事業のほか、数楽で脳トレなどの共催事業の企画・運営を務めるなど、学習したことを地域に還元し、市民相互と地域のつながりを育てる生涯学習の推進が図られている。また、デジタルデバイス解消のためのパソコン及びスマホ教室等を実施している。											
	実施方法の効率性	3	実施方法の効率性については、これまで予算化していない事業費（他の課で予算化するなどし、予算計上できなかった。）の予算化による一時的な増加が見られ、成果も生涯学習講座などの定員数を少なくしたものもあり実績は前年度比で減少となった。しかしながら、これらの要因で一概に効率性が低くなったとは言えず、令和元年度と比べ多くの参加があり、参加者から評価をいただいていることから、横ばいの評価とした。											
	達成度（基本施策の実績）	5	生涯学習サポーター養成講座は、平成26年度より実施しており、数名の受講者がまなぶんに参加し自主的な生涯学習活動を行っている。共催事業はまなぶんメンバーが企画することで、多様な講座の実施につながっている。また、デジタルデバイス解消のための初心者のためのスマホ教室は市内に点在する市立会館11館で実施することで受講者が参加しやすい教室となり、多くの高齢者が受講した。											
	DXへの取組	予定なし			AI・RPA導入の可能性	該当事務なし								
	個別評価	合計点 11	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持										
 達成度（基本施策の実績） 実施方法の効率性		総合評価 生涯学習サポーター養成講座の受講生が設立した「昭島市生涯学習サポーターの会まなぶん」が自主的な活動を展開しており、共催事業のみならず自主事業も実施するなど市民相互と地域のつながりを育てる生涯学習の推進に多大なる貢献をしている。また、高齢者等を含む誰もがデジタル化の恩恵を受けられるよう既存の中老年のためのパソコン教室等に加え、高齢者が気軽に参加することができるよう、市立会館11会館において「ゼロから始めるスマホ教室」を実施し、パソコンやインターネット等を日常生活で活用できるような学習機会の拡大に努めた。実施方法の効率性の評価は、これまで予算化していない事業費（他の課で予算化するなどし、予算計上できなかった。）を予算化したことによる影響は大きく、低くなった。一方で基本施策の現状値は令和元年度と比較し、高い実績があり、達成度の評価は高くなった。事業費の大幅な増は一時的なものと思われるが、現状を維持しつつ今後の参加者数等の事業実績を注視していきたい。												

令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名		学級・講座等事業				事業開廃年度		-							
								継続							
基本データ	予算科目	款	10	項	04	目	07	細目	004	細々目	01	部	生涯学習部	課長	小林 愛
		款名	教育費				課	市民会館・公民館	担当	森山 陽子					
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-⑤ 生涯を通じた学習活動の推進 生涯学習講座など活動の充実を図り、参加者の学習意欲を広げます				係	事業	電話	544-1407						
	根拠法令等	社会教育法 市公民館条例 同条例施行規則				法令による事業 実施義務		<input checked="" type="checkbox"/> 義務(<input type="checkbox"/> 市上乗せあり) <input type="checkbox"/> 任意(<input type="checkbox"/> 都補助等あり)							
	SDG's17の目標	 4 質の高い教育をみんなに													
事業の概要	事業概要	対象			目的										
	実施内容	市内在住・在学・在勤の市民及び他市の市民			市民の実生活に即する生活課題、学術、芸術・文化に関する各種の講座事業等を通し、生活課題の解決や、趣味、教養の向上、健康の増進を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。										
		○市民講座12事業37回 ○市民大学2事業25回 ○地域公民館事業4事業13回 ○交流鑑賞発表のつどい2事業3回（市民文化祭は除く）○自主企画事業5事業20回 ○障害者青年学級1事業21回 ○研修・講習事業1事業1回 ○利用者懇談事業3事業3回 ○共催事業2事業2回													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考<特財名称等>							
	直接事業費		千円	2,091	3,382	2,676	3,798	【その他特定財源】 ・各種講習会等負担金							
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円	526	907	753	1,054								
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円	143	340	148	246								
		一般財源	千円	1,422	2,135	1,775	2,498								
	一般職員人件費		千円	33,120	34,024	34,024	26,001								
	人工数		人	4.00	4.00	4.00	3.00								
	再任用職員人件費		千円				5,660								
	人工数		人				1.00								
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
人工数		人													
総事業費		千円	35,211	37,406	36,700	29,799									
基本施策の現状値						(時点)	R4実績	R5実績	R6実績						
市民会館・公民館主催事業 1,936人						令和元年度	1,585人	1,993人	2,204人						
事業の評価	実施方法の妥当性	3	講座のPRに市公式LINEや公民館Xなどを活用し、一部の講座では申込方法に2次元コードを取り入れた。公民館主催事業の参加者数は増加しており、実施方法は妥当であると考え。												
	実施方法の効率性	3	事業費に大きな増加がない中で、公民館主催事業の参加者数は増加傾向にある。												
	達成度（基本施策の実績）	5	公民館主催事業の参加者数は、コロナ禍における減少から回復し、増加傾向にある。												
	DXへの取組	検討中			AI・RPA導入の可能性	該当事務なし									
	個別評価	合計点 11	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持											
 達成度（基本施策の実績）		総合評価	公民館主催事業参加者数は増加傾向にあり、多様な講座事業を実施することで市民の教養の向上及び生活文化の振興等に寄与することができた。事業の参加者について世代の偏りがあることが課題であり、市民のニーズを的確にとらえることや開催及び周知の方法について引き続き検討していく。												